

介護福祉学科

1 年

カリキュラム・マップ（介護福祉学科）

2024年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

- 1) 介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
- 2) 多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための**思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
- 3) 自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
- 4) 人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1	30	1	○		◎	
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○		◎	
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	
	社会の理解	社会の理解 I	1	30	1	◎	○		
		社会の理解 II	2	30	1	◎	○		
	選択科目	社会貢献活動 I	1	90	2		◎	○	○
社会貢献活動 II		2	90	2		○	◎	○	
介護	介護の基本	介護の基本 I	1	60	2	◎	○		○
		介護の基本 II	2	30	1	◎	○		○
		介護の基本 III	2	60	2	◎	○		○
		介護の基本 IV	2	30	1	◎	○		○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	○
	生活支援技術	生活支援技術 I	1	30	1	◎			
		生活支援技術 II	1	120	3	◎	○	○	○
		生活支援技術 III	2	120	3	◎	○	○	○
		福祉用具と ICT 技術	1	60	2	◎	◎	○	○
		在宅生活支援	2	60	2	◎	◎	○	○
	介護過程	介護過程 I	1	60	2	○	◎		
		介護過程 II - ①	1	30	1	○	◎	○	○
		介護過程 II - ②	2	30	1	○	◎	○	○
		介護過程 III	2	30	1	○	◎		
	介護総合演習	介護総合演習 I	1	30	1	◎			○
		介護総合演習 II - ①	1	30	1	◎	○		○
		介護総合演習 II - ②	2	30	1	◎	○		○
		介護総合演習 III	2	30	1	○	◎		○
	介護実習	介護実習 I - ①	1	80	2	◎		○	○
		介護実習 I - ②	2	50	1	◎		○	○
介護実習 II - ①		1	120	3	◎		○	○	
介護実習 II - ②		2	200	5	◎	○	○	○	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解	1	60	2	◎	○		
	認知症の理解	認知症の理解 I	1	30	1	◎	○		○
		認知症の理解 II	2	30	1	◎	○		○
	障害の理解	障害の理解	1	60	2	◎	○		○
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ I	1	60	2	◎	○		○	
	こころとからだのしくみ II	2	60	2	◎	○		○	
医療的ケア	医療的ケア I	1	30	1	◎	○			
	医療的ケア II	2	60	2	◎	○		○	
	医療的ケア III	2	30	1	◎	○		○	
その他	ITリテラシー I	1	60	2	◎	○	○		
	ITリテラシー II	2	30	1	◎	○	○		
	国家試験対策	2	60	2	◎				
	介護特論	2	30	1				◎	
					◎の科目数	31	8	2	3
					○の科目数	8	23	14	29

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目1つのみ◎をつける）

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授 業 科 目	人 間 の 尊 厳 と 自 立			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

到達目標

- ・①人間の尊厳と自立、②介護における尊厳の保持・自立支援を理解できる。また、社会福祉分野固有の生活支援者の捉え方や支援の考え方を理解することができる。さらに、介護福祉士として利用者支援を行う際の基盤となる社会福祉概念を理解し、今後の介護福祉支援に活かすことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 人間の尊厳の保持への支援（概要）
3. 生命の尊厳、神聖性（SOL）
4. 人間の尊厳
5. 倫理原則と徳の倫理
6. 基本的人権と人権の尊重
7. 人間の尊厳と「自律」・「自立」
8. 生活の質（QOL）
9. パーソンセンタードケア
10. 人間の変化の可能性の尊重
11. エンパワメントとストレングス
12. ソーシャル・インクルージョン
13. 権利擁護・アドボカシー
14. 国際生活機能分類（ICF）、自立支援に向けて
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・自分の暮らしと、人権のかかわりや生活の質について考える。
- ・当たり前前の生活とは何かについて、自分の生活の中で意識し考える。
- ・生命の尊厳、人間の尊厳、人間の成長・発達について意識をしながら日々の人間関係を築いていくよう努力をする。
- ・社会福祉における人のとらえ方や支援を行うための基本的な考え方を理解し身に付ける。

評価の方法・基準

- ・授業への参加態度(15%)、試験(85%)などによる総合評価

教科書

- ・授業で適宜プリントを配布する。

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、社会福祉における人のとらえ方や支援を行うための基本的な考え方を解説する。

授 業 科 目	人間関係とコミュニケーション			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。また、利用者の生活理解に必要なマッピング技法の能力を養う。

到達目標

- ・ 対人援助における人間関係の形成ができる。
- ・ 相談支援におけるコミュニケーションの基礎を理解し、対人援助場面で活用できる。
- ・ マッピング技法の知識と技術を習得し活用できる。

授業計画

【前期】

1. 対人援助とコミュニケーション
2. コミュニケーションモデル
3. コミュニケーションの基本 ①
4. " ②
5. 相談援助の7原則 ①
6. " ②
7. 援助的態度とコミュニケーション ①
8. " ②
9. 対人援助のコミュニケーション・テクニック ①
10. " ②
11. マッピング技法 (ジェノグラム)
12. マッピング技法 (エコマップ)
13. 介護実践におけるチームマネジメント ①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 自分の対人関係におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
- ・ 授業で学んだコミュニケーションの技法を日々の生活の中で、意識をしながら活用する。
- ・ 介護実践におけるチームマネジメントの意義とケアを展開するためのチームマネジメントを理解する。

評価の方法・基準

- ・ 授業への参加態度(15%)、試験(85%)による総合評価

※コミュニケーションの具体的な方法を習得するためのロールプレイも行うので、積極的な授業の参加を求める。

教科書

- ・ 授業で適宜プリントを配布する。

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、相談援助の視点から対人支援の理解を解説する。

授業科目	チームマネジメント			担当者	伊藤 大悟		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護福祉職のグループの中で中核的な役割やリーダーの下で専門職として役割を発揮するための視点を養い、行動できる力を身につける。

到達目標

- ・チームで働くために必要なリーダー・フォロワーの役割と留意点を学び、自分で考え行動する力を身につけることができる。
- ・自分のビジョン、思いや考えを明確にし、言葉にして伝えることができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 自己分析 (クラスの一員として自分には何ができて、何が課題なのか)
3. 他者分析 (仲間の何を知っているのか)
4. チームワークトレーニング① (チームの一員としての役割)
5. " ② (成果とチームワークの関係)
6. プレゼンテーション① (伝える内容と話しの組み立て方)
7. " ② (伝え方の技法)
8. リーダーシップとは (リーダーに求められる知性と感性)
9. フォロアーシップとは (フォロアーに求められる支える力)
10. チームビジョンの構築方法と目標達成方法
11. 介護実践におけるリーダーシップとフォロアーシップの必要性
12. ゲストリーダー①
13. " ②
14. 1年間を振り返ったプレゼンテーション大会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・授業で学んだことを日々の生活 (学校生活や行事等) で実践し、できたこと、できなかったことを日々振り返る。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要資料は適宜配付する。

備考

職能団体等をリーダーとして引っ張る経験を持つ教員が、在学中、または現場に出て必要なチームマネジメントを解説する。

授 業 科 目	社会の理解 I			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

社会福祉の生活を見る視点、日本の家族・世帯・親族の定義、世帯数の推移、日本の社会保障の目的、基本的な考え方、法制度の概要について理解する。具体的には、社会保険制度、公的扶助制度、社会手当、介護保険制度について理解する。

到達目標

- ・社会福祉の生活を見る視点を理解する
- ・家族・世帯・親族の定義を理解し、世帯数の推移を理解する。
- ・社会保障（社会保険、公的扶助、社会手当）について理解する。
- ・公的介護保険制度について理解する。

授業計画

【後期】

1. 社会福祉の生活を見る視点
2. 家族・世帯・親族の定義と世帯の分類とその推移
3. 社会保障の基本的な考え方
4. 公的扶助（生活保護）の原理・原則
5. 生活保護の保護の種類、生活保護施設、生活保護受給者数の推移
7. 社会保障の体系
8. 年金保険
9. 医療保険、後期高齢者医療制度
10. 介護保険（概要）、雇用保険、労働者災害補償保険
11. 社会手当
12. 介護保険制度 ①
13. " ②
14. " ③
15. まとめ

事前・事後学習の内容

主として日本の社会保障法制度について理解する。覚える内容も多く、専門用語も難しいため、しっかりと予習し、復習をする。

- ・テキストを事前に読み概要を理解する。
- ・授業で学んだ原理・原則・法制度について、しっかりと復習をする。
- ・基本的な専門用語については、内容理解を図る。

評価の方法・基準

- ・授業の取り組み（15%）、期末試験（85%）による総合評価

教科書

- ・『介護福祉士実務者研修テキスト②』（中央法規出版）

備考

福祉現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、主として社会保障制度、介護保険制度について解説する。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅰ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

1. 目的理解
2. 導入講座
3. グループでの活動検討
4. 貢献活動①
5. " ②
6. " ③
7. " ④
8. " ⑤
9. 中間振り返り
10. 貢献活動⑥
11. " ⑦
12. " ⑧
13. " ⑨
14. " ⑩
15. 振り返り

【後期】

16. 貢献活動⑪
17. " ⑫
18. " ⑬
19. " ⑭
20. " ⑮
21. 中間振り返り
22. 貢献活動⑯
23. " ⑰
24. " ⑱
25. " ⑲
26. " ⑳
27. 活動報告会準備①
28. " ②
29. " ③
30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと。

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況 (50%)、取り組み態度 (50%)

教科書

- ・なし

備考

授 業 科 目	介護の基本 I			担 当 者	吉岡 俊昭 廣木 佑介	実務経験 ○
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介護 1 年	時 間 数 (単 位 数) 60 (2)

授業の目的・内容

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみを理解する。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢や介護をする上での基本を養う。また、介護福祉士の歴史や多職種連携についても学びを深める

到達目標

- ・生活を支援する意味が理解できる。
- ・介護を必要とする人の理解ができる。
- ・介護福祉の歴史から基本理念である尊厳の保持や自立支援の考え方を理解できる。
- ・地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割と必要性について説明できる。
- ・多職種を理解し、連携の必要性を理解できる

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 自分が目指す介護福祉士とは
3. 介護福祉士とは
4. 自己分析と他者分析
5. 私たちの生活の理解「生活とは何か」
6. 価値観の理解と共有
7. 介護福祉を必要とする人の理解
8. 「自分らしさ」と「その人らしさ」
9. 尊厳ある生活とは
10. 利用者本位と利用者主体の考え方
11. 地域共生社会とは
12. 地域連携の意義と目的
13. 地域連携の中での介護福祉士の役割
14. 老衰死と生死観
15. 中間まとめ

【後期】

16. 介護福祉を取り巻く状況
17. 介護福祉の歴史
18. 介護福祉の基本理念
19. 社会福祉士及び介護福祉士法
20. 介護福祉士の活動の場と役割
21. 利用者の生活を支えるしくみ
22. 生活を支えるフォーマルサービスとは
23. 生活を支えるインフォーマルサービスとは
24. 地域連携
25. 多職種連携・協働の必要性
26. 多職種連携・協働に求められる基本的な能力
27. 保健・医療・福祉職の役割と機能
28. 多職種連携・協働の実際
29. 介護現場からのメッセージ
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・教員が授業後に次回の授業説明を行い、その部分の教科書を読むなど授業の準備を行う。また、教員から出された課題を次の授業までに行っておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(70%)、レポート(15%)、授業への意欲的な参加(15%)で評価を行う。

教科書

- ・『介護の基本 I』(中央法規出版)、『介護の基本 II』(中央法規出版)

備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみについて解説する。

授 業 科 目	生活支援技術 I			担 当 者	吉岡 俊昭 梅田 光希	実務経験
						○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)
						30 (1)

授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解し、福祉用具を選択・活用する基礎的な知識・技術を習得する。また住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・住まいの多様性や居住環境の整備の必要性を理解できる。
- ・福祉用具を活用する基礎的な知識・技術を習得できる。

授業計画

【前期】

1. 生活支援の基本的な考え方
2. 介護保険制度と障害者総合支援法について
3. 生活支援と ICF の視点
4. 住まいの役割と機能
5. 加齢と生活空間
6. 快適な室内環境
7. 安全に暮らすための生活環境
8. 高齢者・障がい者の住まい
9. 生活支援における福祉用具の重要性
10. 福祉用具の種類
11. 福祉用具の実際
12. 福祉用具の管理とリスクマネジメント
13. 介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
14. 生活支援と多職種連携(チームアプローチ)
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』（中央法規出版） ・必要資料は適宜配布する

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、福祉用具の知識や活用方法、居住環境等について解説する。

授業科目	福祉用具とICT技術			担当者	角南 拓磨		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

専門職より指導を受け、福祉用具の考え方や最新の福祉用・ICT機器の種類や活用方法を学ぶ。

到達目標

- ・介護福祉士に必要な福祉用具とICT技術の知識を習得することで、個々の利用者に適した福祉用具の選定の視点を持つことができる。
- ・福祉・介護業界の生産性向上に向けた知識・技術を身につけることができる。

授業計画

【後期】

1. 福祉用具についての総論
2. ベッドについて (組立て解体)
3. ベッド回りについて ①
4. " ②
5. 移動について①
6. 福祉用具フェア参加 ①
7. " ②
8. 移動について②
9. 住環境整備について
10. 福祉用具の選定・住環境について
11. 介護ロボット・ICT総論
12. 介護ロボット・ICT ① (見守り)
13. " ② (記録・コミュニケーション)
14. 科学的介護について
15. 今後現場で必要にある福祉用具について

事前・事後学習の内容

・授業終了時、プリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

・授業態度・出席状況 (20%)、プレゼンテーション内容 (80%) で評価

教科書

- ・『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』(中央法規出版)
- ・『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』(中央法規出版)

授 業 科 目	介 護 過 程 I			担 当 者	寺藤 美喜子 梅田 光希		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	6 0 (2)

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の仕組みや目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

到達目標

- ・介護過程の意義と目的が理解できる。
- ・基本的な展開方法を理解できる。
- ・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

授業計画

【前期】

1. 生活を支える介護の仕事とは
2. 根拠のある介護とは
3. 介護過程とケアプラン
4. 介護過程とICF
5. 介護過程の全体像・意義と目的
6. 介護過程の展開・アセスメントとは
7. 情報収集
8. 情報の解釈・関連づけ・統合化とは①
9. 情報の解釈・関連づけ・統合化とは②
10. 情報収集の実際
11. 情報の解釈・関連づけ・統合化の演習①
12. 情報の解釈・関連づけ・統合化の演習②
13. 生活課題の明確化とは
14. 生活課題の明確化の実際
15. まとめ

【後期】

16. アセスメントについて（前期の復習）
17. 介護計画の立案とは
18. 介護計画における目標とは
19. 具体的な支援内容と支援方法について
20. 事例にもとづいた介護計画の立案①
21. 事例にもとづいた介護計画の立案②
22. 実施について
23. 実施における留意点と記録について
24. 評価について
25. 評価における留意点と修正や記録について
26. 介護実習における介護計画の実際①
27. 介護実習における介護計画の実際②
28. 介護実習における介護計画の実際③
29. 介護実習における介護計画の実際④
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版） ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組みや目的等、基本的な展開方法を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習 I			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験 ○
履 修 方 法	演 習	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護実習とは何かを理解し、介護実習 I に必要な知識や技術を確認する。

到達目標

- ・介護実習 I に必要な知識や技術を身につけることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【前期】

1. 介護実習の意義と目的
2. 高齢者の暮らしを考える
3. 実習 I のねらいと実習モデル
4. 実習 I で想定される実習先 ①特別養護老人ホーム ②介護老人保健施設
5. " ③通所介護 ④その他実習先
6. 実習を始めるまでの手続き①
7. " ②
8. " ③
9. 生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14. 実習後指導
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習 I に必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅱ-①			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。

演習課題に取り組み、介護過程を中心とした実習Ⅱ-①に必要な知識・技術、多職種連携の視点を学ぶ。

到達目標

- ・介護実習Ⅱに必要な知識や技術を身に付けることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【後期】

1. 実習Ⅰの振り返り
2. 実習Ⅱのねらいと実習モデル
3. 障害者支援施設、重症心身障害者施設とは
4. 実習施設を調べる
5. 実習を始めるまでの手続き①
6. " ②
7. 自己紹介新聞作成①
8. " ②
9. 実習目標について
10. 生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
11. " ②
12. " ③
13. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14. 実習後指導
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ教員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護実習 I-①			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	80 (2)

授業の目的・内容

10日(80時間)の介護現場での実習を行う。比較的元気な高齢者とのコミュニケーションを図り、関わることにより、高齢者の生活の様子や興味・関心を理解する。また、高齢者が生きてきた時代を理解することを通して、高齢者の生活を多面的に理解し利用者援助に役立てる。さらに、介護職員からの指導を受けながら介護業務に関わることで、介護福祉士としての基礎作りを行い、今後の学習に生かす。

到達目標

- ・言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。
- ・利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。
- ・初歩的な日常生活援助ができる。

授業計画

【前期】

10日間(80時間)の介護実習を行う。10日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・高齢者の身体的、心理的な特徴
- ・高齢者のコミュニケーションの特性
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・利用者が生きてきた時代背景 など充実した介護実習が行なえるようにする。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2024年度介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-①			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	120 (3)

授業の目的・内容

15日間（120時間）の介護実習を行う。

- ・生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ・利用者の個別性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ・対象利用者を決め、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報を収集し整理し、ICFの考え方に基づいた介護過程の第1段階を身に付ける。

到達目標

- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報の収集ができる。
- ・医療・看護との連携の方法について学ぶ。
- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

授業計画

【後期】

15日間（120時間）の実習内容は15日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
- (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
- (9) 健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。
- (10) レクリエーションを企画し、実践する。
- (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案するための情報収集を行う。

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階と情報収集の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2024年度介護実習要綱

備考

授 業 科 目	発達と老化の理解			担 当 者	香川 満子		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	通年	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

- ・人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を学習する。

到達目標

- ・介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得することができる。
- ・成長・発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 成長・発達とは、成長・発達の原則・法則
3. 発達段階と発達理論、発達課題
4. //
5. 人間の成長・発達 ①胎生期
6. // ②幼児期
7. // ③学童期
8. // ④青年期
9. // ⑤老年期
10. 老化とは
11. 老年期の発達課題
12. 老年期をめぐる課題
13. 老化にともなう身体的変化
14. //
15. まとめ

【後期】

16. 老化にともなう心理的变化
17. 老化にともなう社会的変化
18. 高齢者と健康
19. 高齢者に多い症状・疾患の特徴
20. 高齢者に多い疾患と症状①骨格・筋系
21. // ② //
22. // ③脳・神経系、感覚系
23. // ④循環器系
24. // ⑤呼吸器系
25. // ⑥消化器系、泌尿器系
26. // ⑦内分泌・代謝系
27. // ⑧口腔疾患、悪性腫瘍
28. // ⑨感染症・精神疾患
29. // ⑩その他
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・グループワークに積極的に参加する。
- ・テキストを熟読する。
- ・授業始めに前回の授業内容の設問を行うので復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (80%) 提出物 (10%) 出席状況・授業態度 (10%)

教科書

- ・「発達と老化の理解」(中央法規出版)

備考

授業科目	障害の理解			担当者	小田 卓		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

到達目標

- ・障害者の法的定義について説明できる。
- ・障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。
(自己決定、エンパワメント、権利擁護、ICF)
- ・障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
- ・障害がもたらす日常生活への影響について説明できる。
- ・障害がもたらす心理面への影響について説明できる。
- ・障害の概念を知り、障害福祉について興味、関心を持つことができるようにする。

授業計画

【前期】

1. 障害のある人の暮らし 成年後見制度
2. わが国における障害者の法的定義
3. リハビリテーションの意味と理念、目的
4. 障害のある人の自己決定
5. エンパワメント
6. 権利擁護
7. 視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
8. 聴覚・言語障害、重複障害
9. 運動機能障害
10. 知的障害、発達障害
11. 精神障害
12. 高次脳機能障害
13. 重症心身障害
14. 心臓機能障害
15. まとめ

【後期】

16. 腎機能障害 ある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
17. 呼吸機能障害
18. 膀胱・直腸機能障害
19. 免疫機能障害
20. 肝臓機能障害
21. 難病
22. 社会資源の利用と開発①
23. // ②
24. 福祉機器
25. 居宅支援と自立
26. 家族支援の視点
27. 家族の状態の把握と介護負担の軽減
28. 多職種との連携
29. 地域におけるサポート体制
30. まとめ

※1～6 までは障害の歴史を学びながら障害の概念、制度等の理解を深める。

事前・事後学習の内容

- ・板書やスライドで表示した内容はノートにとる。
- ・教科書や科目に関連する書籍を読んでみる。

評価の方法・基準

- ・出席状況、授業態度 (20%) 提出物 (10%) 試験総合得点 (70%) で評価

教科書

- ・『障害の理解』(中央法規出版)

備考

授業科目	こころとからだのしくみI			担当者	太田 志乃		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、支援する側とされる側、双方にとって根拠のある介護実践を行うために必要な身体的・心理的・社会的側面を総合的に捉えるための基本的な知識を理解する。また、人間の心理、人体の構造と機能、生命が維持できている徴候と観察についての基本的な知識を身につけることを目指す。

到達目標

人体の機能と構造についての理解

- ・人間が活動する上で必要な心理について説明できる。
- ・生命徴候は何かを説明し、測定方法について説明、実施できる。
- ・生活支援技術への応用をイメージできる。
- ・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1. こころとからだのしくみの必要性
2. 健康とは何か
3. 人間の欲求とは何か
4. 自己概念
5. 自己実現と尊厳
6. こころのしくみ
7. 学習・記憶・思考のしくみ
8. 感情のしくみ
9. 意欲・動機付けのしくみ
10. 適応と適応機制
11. ストレスとストレスマネジメント
12. 生命維持するしくみ
13. 自律神経とは
14. 前期学習の復習
15. まとめ 課題レポート作成

【後期】

16. 生命を維持する徴候
17. バイタルサインの観察法の演習
18. からだづくりの理解、人体の構造と機能
19. 細胞・遺伝
20. 脳・神経
21. 感覚器
22. 呼吸器
23. 循環器
24. 消化器
25. 泌尿器
26. 骨・関節・筋肉
27. 生殖器・内分泌
28. 血液・体液・リンパ液
29. 前期・後期学習の復習
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規）

備考

授 業 科 目	医療的ケア I			担 当 者	太田 志乃		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (2)

授業の目的・内容

医療的ケア実施基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について学ぶ。

到達目標

- ・福祉の専門職として医療的ケアに携わるために関連する制度の概念、社会背景等について説明できる。
- ・医療的ケアに関連する法制度や医療倫理について理解することができる。
- ・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容を説明できる。

授業計画

【後期】

1. なぜ医療的ケアを学ぶのか
2. 医行為とは(法的な理解)
3. チーム医療
4. 医療の倫理と個人の尊厳の自立
5. 喀痰吸引等制度
6. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景
7. その他の制度
8. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
9. 救急蘇生法
10. 清潔保持と感染予防
11. 療養環境の清潔、消毒法
12. 健康状態の把握
13. 急変状態について
14. 復習
15. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（20%）、筆記試験（80%）

※100%の出席率が必要な科目である

教科書

- ・『医療的ケア』（中央法規）

備考

授業科目	ITリテラシーI			担当者	椿 幸治		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	6.0 (2)

授業の目的・内容

現代社会で必要となるパソコン技術（タッチタイピングや文書作成）や情報社会を生き抜いていくために必要な情報モラルを学習する。また、パソコンやスマートフォンを用いた新聞作成や動画作成、SNS を活用した広報手法を学び、介護現場で求められる様々な要望に応えられる IT 技術を身につける。

到達目標

- ・情報社会に必要な情報モラルを理解する。
- ・実習報告会の資料を Word や PowerPoint で作成し、発表する。
- ・パソコンやスマートフォンを活用した新聞、動画作成を行い、発信する能力を身につける。
- ・日本情報処理検定の日本語ワープロ検定試験、文章入力スピード認定試験の3級以上を取得する。

授業計画

【前期】	【後期】
1. Teams の導入	16. 情報モラル③ (SNS と個人情報)
2. パソコンの基本的な使い方	17. 社会貢献活動と広報手法 ①
3. 自己紹介新聞作成 I ①	18. " ②
4. " ②	19. " ③
5. " ③	20. " ④
6. 情報モラル① (学外実習に向けて)	21. " ⑤
7. 介護実習 I -①実習報告会資料作成 ①	22. SNS の活用
8. " ②	23. タイピング練習と文書作成 ①
9. " ③	24. " ②
10. ZOOM会議	25. " ③
11. 医療と健康	26. 自己紹介新聞作成 II ①
12. 介護技術動画作成 ①	27. " ②
13. " ②	28. 介護実習 II -①実習報告会資料作成 ①
14. " ②	29. " ②
15. 情報モラル② (高齢者と防犯)	30. " ③

事前・事後学習の内容

- ・介護実習に必要な資料や発表資料の作成を行う。
- ・社会貢献活動や広報手法を学び、発表するための資料を事前に集める。

評価の方法・基準

- ・出席状況を含む授業態度 (30%)、作成物 (70%) 評価する。

教科書

- ・『イチからしっかり学ぶ！学生のための Office 基礎と情報モラル』(noa 出版)

備考

2 年

カリキュラム・マップ

2023年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

- 1) 介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
- 2) 多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための**思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
- 3) 自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
- 4) 人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1	30	1	○		◎	
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○		◎	
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		
		社会の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○		
	選択科目	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		◎	○	
社会貢献活動Ⅱ		2	90	2		○	◎		
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	1	60	2	◎	○	○	
		介護の基本Ⅱ	2	30	1	◎	○	○	
		介護の基本Ⅲ	2	60	2	◎	○	○	
		介護の基本Ⅳ	2	30	1	◎	○	○	
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1	30	1	◎			
		生活支援技術Ⅱ（調理）	1	60	2	◎			
		生活支援技術Ⅱ（被服）	2	60	2	◎			
		生活支援技術Ⅲ	1	120	3	◎	○	○	
	生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅳ	2	120	3	◎	○	○	
		介護過程	介護過程Ⅰ	1	60	2	○	◎	
			介護過程Ⅱ－①	1	30	1	○	◎	○
			介護過程Ⅱ－②	2	30	1	○	◎	○
	介護過程Ⅲ		2	30	1	○	◎		
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1	30	1	◎		○	
		介護総合演習Ⅱ－①	1	30	1	◎	○	○	
		介護総合演習Ⅱ－②	2	30	1	◎	○	○	
		介護総合演習Ⅲ	2	30	1	○	◎	○	
	介護実習	介護実習Ⅰ－①	1	80	2	◎		○	
		介護実習Ⅰ－②	2	50	1	◎		○	
介護実習Ⅱ－①		1	120	3	◎		○		
介護実習Ⅱ－②		2	200	5	◎	○	○		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		
		発達と老化の理解Ⅱ	1	30	1	◎	○		
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○	○	
		認知症の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○	○	
	障害の理解	障害の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○	○	
		障害の理解Ⅱ	1	30	1	◎	○	○	
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	1	30	1	◎	○	○		
	こころとからだのしくみⅡ	1	30	1	◎	○			
	こころとからだのしくみⅢ	2	60	2	◎	○	○		
医療的ケア	医療的ケアⅠ	1	30	1	◎	○			
	医療的ケアⅡ	2	60	2	◎	○	○		
	医療的ケアⅢ	2	30	1	◎	○	○		
その他	ITリテラシーⅠ	1	60	2	◎	○	○		
	ITリテラシーⅡ	2	30	1	◎	○	○		
	国家試験対策 就職実務	2	60 30	2 1	◎				
◎の科目数					34	6	2	3	
○の科目数					8	26	12	28	

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目

授 業 科 目	社会の理解Ⅱ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験の合格を目指して、必要な法制度について理解する。特に障害者福祉制度の内容理解を目指す。

到達目標

- ・ 障害者福祉の動向、障害者福祉の法制度について理解できる。
- ・ 生活に特別な支援が必要な人たちへの権利擁護が理解できる。
- ・ 障害者や高齢者の権利を守る法制度について理解する。
- ・ 日本の社会福祉財政について理解できる。
- ・ 介護育児休業制度について理解できる。
- ・ 社会福祉法人について理解できる。

授業計画

【前期】

1. 障害者福祉の動向
2. 障害者保健福祉に関連する法体系
3. 障害者総合支援制度 ①
4. " ②
5. " ③
6. 障害児に対する支援制度
7. 障害者差別解消法・障害者雇用促進法
8. 成年後見制度
9. 日常生活自立支援事業
10. 高齢者虐待防止法
11. 育児・介護休業法
12. 財政と社会福祉
13. 社会福祉法人
14. NPO 法人
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 覚える内容が多いため、法制度・専門用語とその内容について必ず復習し理解する。
- ・ 法制度の大枠を理解し、それぞれの細かな制度や枠組みがイメージでき説明できるように努める。

評価の方法・基準

- ・ 授業への取り組み(15%)、期末テスト(85%)による総合評価

教科書

- ・ 『介護福祉士養成講座 2 社会の理解』（中央法規出版）

備考

介護現場で相談援助職に従事した経験を持つ教職員が、福祉制度について解説する。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅱ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活や地域の課題に対して介護福祉士としての役割を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

1. 目的理解
2. 導入講座
3. グループでの活動検討
4. 貢献活動①
5. " ②
6. " ③
7. " ④
8. " ⑤
9. 中間振り返り
10. 貢献活動⑥
11. " ⑦
12. " ⑧
13. " ⑨
14. " ⑩
15. 振り返り

【後期】

16. 貢献活動⑪
17. " ⑫
18. " ⑬
19. " ⑭
20. " ⑮
21. 中間振り返り
22. 貢献活動⑯
23. " ⑰
24. " ⑱
25. " ⑲
26. " ⑳
27. 活動報告会準備①
28. " ②
29. " ③
30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況 (50%)、取り組み態度 (50%)

教科書

- ・なし

備考

授 業 科 目	介護の基本Ⅱ			担 当 者	香川 寛		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護を必要とする人の理解を深め、自立支援に向けた支援方法を学び、介護予防やリハビリテーションの必要性を理解する。

到達目標

- ・介護福祉士の役割や機能を説明できる。
- ・介護を実践する上で、リハビリテーションの必要性や他専門職との協働の考え方を理解できる。
- ・ICFの視点を理解し、介護予防の必要性を理解できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション&プロとは
2. リハビリテーションとその実際
3. ノーマライゼーションとICF
4. 介護現場での二次障害
5. 自立支援とリハビリテーションケア
6. リハビリ的立位と移乗
7. リハビリ的座位と姿勢管理
8. リハビリ的起き上がり
9. 腰痛予防とスライディングボードでの移乗
10. 褥瘡ケアとハンドリング
11. 福祉用具でのベッド上移動 ①
12. " ②
13. 介護予防と福祉用具の活用
14. 人権擁護と虐待
15. リハビリテーションのための目標志向アプローチ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・レポート(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

授業科目	介護の基本Ⅲ			担当者	梅田 光希		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援を考える。災害時における介護福祉士の役割について理解を深め、介護福祉士として災害時に必要な知識と技術を養う。また、介護職の心身と共に健康管理の方法についても学習し、自己コントロールができるように学習する

到達目標

- ・介護保険制度・障害者総合支援法におけるサービス等の種類、内容について説明できる。
- ・利用者を支援する様々な専門職種、地域の関係機関の機能と役割について説明できる。
- ・介護における安全確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができ、具体的な事故と予防策について、実践例をもとに考えを述べるができる。
- ・災害時における介護福祉士の役割が理解できる。
- ・介護職の健康管理の必要性が理解できる

授業計画

【前期】

1. フォーマルサービス・インフォーマルサービス
2. 高齢者のためのフォーマルサービス
3. 介護保険制度におけるサービスの種類（居宅）
4. " (施設、地域密着)
5. " (地域支援事業)
6. 振り返り
7. 障害者のためのフォーマルサービス
8. 地域福祉に関わる組織・団体
9. 住み慣れた地域でいつまでも暮らすために①
10. " ②
11. 災害時の介護福祉士の役割
12. 災害時の支援の実際①
13. " ②
14. 労働環境の整備
15. まとめ

【後期】

16. 介護における安全の確保
17. リスクマネジメントとは何か
18. リスクマネジメント（身体拘束）
19. 危険予知トレーニング
20. 介護職に必要な感染に対する知識①
21. " ②
22. 介護職の健康管理（ストレスマネジメント）①
23. " ②
24. 介護職の健康管理（アンガーマネジメント）①
25. " ②
26. 労働環境の整備①
27. " ②
28. 介護福祉士会とその活動①
29. " ②
30. 全体のまとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題について、提出日までに行う。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、授業態度(20%)

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

備考

介護施設で介護職として勤務した経験を持つ教員が、介護サービスや障害者サービスの特性や実際、介護福祉士に必要なリスクマネジメントや労働環境の整備について解説する。

授 業 科 目	介 護 の 基 本 IV			担 当 者	吉 岡 俊 昭		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

介護福祉士に求められる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得し、介護福祉士として正しい判断ができるよう行動できるようになる。また職能団体の意味を理解し、自分の資格を自分で守り、高めることの必要性について理解する

到達目標

- ・介護福祉士の倫理について理解し実践できる
- ・職能団体を理解し、自分の資格を守り高めていくことの必要性が理解できる
- ・介護福祉士の可能性を自分でイメージできるようになる

授業計画

【後期】

1. 介護福祉士の倫理
2. 介護倫理と虐待
3. 虐待につながる不適切ケア①
4. " ②
5. " ③
6. 介護福祉士を支える団体①
7. " ②
8. 日本介護福祉士会倫理綱領
9. 尊厳を保持した倫理的介護の実践①
10. " ②
11. 介護福祉士の可能性①
12. " ②
13. " ③
14. 介護福祉士とは
15. 全体のまとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版） ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事、職能団体に役員を務める経験を持つ教員が、介護の倫理や職能団体について解説し、これから求められる介護福祉士の役割や機能について学びを深める

授 業 科 目	生活支援技術Ⅱ (被服)			担 当 者	梅田 光希		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護福祉士として、自立に向けた生活支援（家事支援）をするうえで必要な知識と技術を習得する。

到達目標

・衣と住に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の自立に向けた生活を支援（家事支援）することができる。

授業計画

【前期】

1. 訪問介護とは
2. 訪問介護に必要な接遇マナー（接遇マナーと事故防止、クレーム対応）
3. 生活援助 ①掃除
4. " ②洗濯
5. " ③買い物（代行）
6. " ④調理
7. 外出支援（通院・買い物）
8. 自立生活支援・重度化防止のための見守りの援助
9. 訪問介護の実際 ①（高齢者支援）
10. " ②（高齢者支援）
11. " ③（障害者支援）
12. ICT①
13. " ②
14. まとめ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
- ・日々の生活の中で、学んだ家事技術を実践し、身につける。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（30%）、演習レポート・実技（50%）、出席（20%）

教科書

- ・『最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）
- ・『イラストでわかる13歳から自立できる家事の基本』（PHP研究所）

備考

授 業 科 目	生活支援技術Ⅳ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験 ○
履 修 方 法	実習	期 間	通年	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	120 (3)

授業の目的・内容

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。

到達目標

・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護が提供できるために必要な知識や技術を習得し、介護実践に活用できる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 様々な障害者の生活と理解	16. 前期の振り返り
2. 障害や状況に応じた移動・移乗の方法	17. 事例検討A 適切なケア①
3. " ポジショニング	18. " ②
4. " 食事介護の方法	19. " ③
5. " 口腔ケア	20. 事例検討B 適切なケア①
6. " 排泄介護の方法	21. " ②
7. " 入浴介護の方法①	22. " ③
8. " " ②	23. 事例検討C 適切なケア①
9. " 整容介護の方法	24. " ②
10. 介護福祉士に必要な薬の知識	25. " ③
11. 福祉用具・介護ロボット・ICT 機器見学	26. 事例検討D 適切なケア①
12. 緊急時の対応と感染予防	27. " ②
13. 終末期における介護の意義と目的（エンゼルケア）	28. " ③
14. 終末期におけるグリーフケア（入棺体験）	29. まとめ①
15. 視覚障害・聴覚障害に応じた介護	30. " ②

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。

評価の方法・基準

・試験(80%)、授業への参加度・発言の積極性(20%)

教科書

- ・『生活支援技術Ⅱ・Ⅲ』（中央法規出版）
- ・『本人の視点に基づく介護技術ハンドブック』
- ・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、障害に応じ、利用者の潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅱ-②			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

実習の教育効果をあげるため、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力などについて総合的な学習を行う。実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、多職種協働の視点を学ぶ。

到達目標

- ・介護実習Ⅱ-①を振り返り、介護実習Ⅱ-②の課題が理解できる。
- ・介護実習に向けて、実習個人票や実習目標などの作成ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に向けて、より良い実習を目指した事前取組ができる。
- ・介護実習Ⅱ-②に必要な基本的な知識の整理ができ、資料作りができる。
- ・担当利用者のアセスメントと個別援助計画の作成ができる。
- ・実習報告会を通して、自分自身の今後の課題が理解できる。

授業計画

【前期】

1. 実習Ⅱ-①の振り返り
2. 介護実習Ⅱ-②について
3. 実習Ⅱ-②のねらいと実習モデル①
4. " ②
5. 介護技術を軸にした介護実習 「実習日誌」①
6. " ②
7. " ③
8. 実習前準備 「実習施設」
9. " 「個人票」
10. " 「個人目標」
11. 実習前指導
12. 実習中間指導①
13. " ②
14. 実習報告会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・プリント配布

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅲ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

前半は文献研究の進め方を学び、介護福祉士として求められる事例研究に必要な知識と技術を身に付ける。後半は介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ発表する。

到達目標

- ・介護実習で得た事例をもとに、事例研究としてまとめることができる。
- ・事例研究としてまとめた成果物を発表用のスライドにすることができる。
- ・発表用のスライドと原稿をもとに、時間内で発表することができる。
- ・事例研究発表の方法や手順を理解し実践することができる。

授業計画

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word 作成①
3. " ② (担当教員に指導を受け、研究概要を完成する)
4. " ③
5. " ④
6. 事例研究 Power Point 作成 ① (発表原稿の作成を含める)
7. " ② (")
8. " ③ (アニメーション、発表原稿の作成を含める)
9. " ④ (")
10. 事例研究発表リハーサル (個別リハーサル、Power Point と発表原稿の修正)
11. 事例研究発表①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. " ⑤

事前・事後学習の内容

- ・事例研究の原稿・発表用スライド・発表原稿の作成
- ・発表のリハーサル

評価の方法・基準

- ・事例研究概要と Power Point の出来栄え(50%)、事例研究発表の内容(50%)で総合評価を行う

※授業以外の時間に担当教員の指導を受けながら Power Point と発表原稿の修正を各自行い、リハーサルと研究発表に間に合わせる。また、パソコン教室の使用状況、事例研究発表の状況によって、授業時間を同日に複数時間とることがあるので欠席には十分気を付けること。

※Word、PowerPoint の指導を各担当教員から受け、提出期限までに仕上げる。

教科書

- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	介護実習Ⅰ-②			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	50 (1)

授業の目的・内容

- ①7日間（56時間）の介護実習を行う。
- ②在宅で生活している利用者の居住環境と日常生活を知り、訪問介護や小規模多機能型居宅介護の一般的・特殊的作用について理解する。
- ③これまで培った介護知識と技術を活用し、在宅で生活している利用者の日常生活援助ができる。
- ④介護福祉の目的のひとつが、地域で生活している利用者の生活援助の推進を図ることであることを理解する。
- ⑤地域で生活している人たちの自助グループや、それらを支援する地域組織や団体について理解し、共に生きる福祉のまちづくりについて理解する。

到達目標

- ・実習事業所の概要を理解する。
- ・在宅で生活する利用者がどのような暮らしを送り、その暮らしに介護職がどのように関わっているのかを学ぶ。
- ・在宅で生活する利用者に関わる各専門職の役割と連携方法を学ぶ。

授業計画

【前期】

7日間（56時間）の実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習施設の概要を理解する。 (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 (3) 在宅で生活している利用者の日常生活を理解する。 (4) 介護職の役割を理解する。 (5) 基本的な在宅の日常生活援助を理解する。 (6) 実習指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 (7) 地域生活の積み重ねを通して、人々の生活歴と成育歴が形成され、価値と習慣を有する固有の存在として主体的に生きる人間が育まれていることを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> (8) 介護事業所は、地域にある社会資源のひとつであり、地域社会との関わりと様々な社会資源との連携と協働によって事業を行っていることを理解する。 (9) 地域にある介護事業所などの社会資源を理解し、それらが地域住民の生活を支えていることを理解する。 |
|---|---|

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・訪問介護、小規模多機能型居宅介護のサービス内容について理解する。
- ・配属された事業所の理解を図る。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。
- ・在宅実習での学びから、施設で生活している人たちにどのような支援をする視点が必要かを考える。

評価の方法・基準

- ①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、④実習での学び（20%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2024年度 介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-②			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	200 (5)

授業の目的・内容

- ①25日間(200時間)の介護実習を行う。
- ②生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ③利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ④対象利用者を決め、ICFの考え方にに基づき、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報の収集、アセスメント、個別援助計画の作成、実施、評価を行う。

到達目標

- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。
- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報収集、アセスメント、個別援助計画の作成ができる。
- ・個別援助計画に沿った介護支援を実施し、評価することができる。
- ・処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、医療・看護との連携の方法について学ぶ。

授業計画

【前期】

25日間(200時間)の実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| (1) 実習施設の概要を理解する。 | (10) レクリエーションを企画し、実践する。 |
| (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 | (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案・実施・評価する。 |
| (3) 利用者の日常生活を理解する。 | (12) カンファレンスに参加し、多職種協働の重要性を理解する。 |
| (4) 介護職の役割を理解する。 | (13) 夜間勤務を1回経験し、指導者の指示により夜間の業務内容および利用者の状態を理解する。 |
| (5) 基本的な日常生活援助を理解する。 | (14) 指導者の監督・指導のもとに、終末期の一部を見学する。 |
| (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 | |
| (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 | |
| (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。 | |
| (9) 健康管理援助(予防的介護)の仕方を学ぶ。 | |

(機会があれば)

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階である情報収集、アセスメント、個別援助計画の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ①実習前の提出物(10%)、②実習日誌(10%)、③実習に対する姿勢(10%)、④実習での学び(10%)、⑤アセスメント・個別援助計画・評価シート(10%)、実習指導者による実習評価(50%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2024年度 介護実習要綱

備考

授 業 科 目	認知症の理解Ⅱ			担 当 者	長田 美紀		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。パーソン・センタード・ケアに基づく理論と実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・認知症の人の認知機能の変化が、どのように生活に影響しているかを理解し、生活を続けるために環境をどのように提供するかを考えることができる。
- ・認知症のステージに応じた介護について、介護職としてのかかわり方を説明できる。
- ・認知症の人が「その人らしく」暮らすために、地域のかや家族の力を活かす方法を考えることができる。

授業計画

【前期】

1. パーソン・センタード・ケア
2. アセスメントツール センター方式
3. アセスメントツール ひもときシート
4. 認知症の人とのコミュニケーション
5. 認知症の人へのケア①
6. " ②
7. ユマニチュード
8. バリデーション、回想法
9. 終末期の人の医療と介護
10. 環境づくり
11. 家族への支援①
12. " ②
13. 制度、サービス
14. 多職種連携
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストの次回授業範囲を読んでおくこと。
- ・授業終了時に提示した課題を実施し、次回授業時に提出すること。
- ・社会資源のリサーチをしておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、提出課題(10%)、授業態度(10%)

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅢ			担当者	太田 志乃		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

根拠のある介護実践・日常生活支援を行うために必要な人体の機能と構造、心理について基礎的な知識を身につけることを目指す。得られた知識を介護実践に必要な情報収集やアセスメントを強化し、支援を必要とする人の状態にあった生活支援技術を提供できるよう役立てる。

到達目標

日常生活支援における心身の状態を理解できる

- ・移動、身じたく、食事、清潔保持、排泄、睡眠におけるこころとからだのしくみについて理解できる。
- ・生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。
- ・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1. 移動のしくみ
2. 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
3. 機能低下・障害が移動に及ぼす影響
4. 移動に関する変化の気づきと対応
5. 身じたくのしくみ①
6. 身じたくのしくみ②
7. 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
8. 身じたくに関する変化の気づきと対応
9. 食事のしくみ
10. 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
11. 食事に関連する変化の気づきと対応①
12. 食事に関連する変化の気づきと対応②
13. 休息・睡眠のしくみ
14. 睡眠障害の種類、睡眠薬の種類
15. まとめ 課題レポート作成

【後期】

16. 入浴・清潔保持のしくみ
17. 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①
18. 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②
19. 入浴・清潔保持に関連する変化の気づきと対応
20. 排泄のしくみ
21. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①
22. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②
23. 排便に関連する変化の気づきと対応
24. 介護福祉職に必要な薬の知識
25. 人体の機能と構造を深める課題作成①
26. 人体の機能と構造を深める課題作成②
27. こころとからだのしくみ復習①国家試験対策
28. こころとからだのしくみ復習②国家試験対策
29. こころとからだのしくみ復習③国家試験対策
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規）

備考

授 業 科 目	医療的ケアⅡ			担 当 者	太田 志乃		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	通年	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

到達目標

- ・根拠に基づく喀痰吸引・経管栄養の方法・留意点について説明できる。
- ・医療的ケア実施の際に予測される急変・事故、対応について理解し、安全確認ができる。
- ・基本的な救急蘇生法を説明、実施できる。

授業計画

【前期】

1. 医療的ケアの復習、オリエンテーション
2. 呼吸のしくみとはたらき
3. 喀痰吸引の基礎的知識①
4. " ②
5. 喀痰吸引の実施手順①
6. " ②
7. 消化器系のしくみとはたらき
8. 経管栄養の基礎的知識①
9. " ②
10. 経管栄養の実施手順①
11. " ②
12. 栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13. 現場での医療的ケアの実際
14. まとめ①
15. " ②

【後期】

16. 救急蘇生法
17. 心肺蘇生法①
18. " ②
19. 医療的ケア急変・事故発生時の対応と連携①
20. " ②
21. 清潔操作実施手順
22. 清潔操作演習
23. 家族支援①高齢者
24. " ②こども
25. 医療的ケアの説明と同意
26. 医療職との連携、記録の書き方
27. 医療的ケア復習①国家試験対策
28. " ②国家試験対策
29. " ③国家試験対策
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

- ・『COCOAR』の無料アプリを各自インストールし、授業前後に教科書と合わせて確認し、各自理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（80点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（20%）、筆記試験（80%）

※100%の出席率が必要な科目。前期の筆記試験に合格後、「医療的ケアⅢ(演習)」に進むことができる。

教科書

- ・『医療的ケア』（中央法規）

備考

授 業 科 目	医療的ケアⅢ			担 当 者	太田 志乃		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

「医療的ケア(講義)」が終了し筆記試験に合格後、実際にシュミレーターを用いて、喀痰吸引、経管栄養の演習を行う。実施手順に沿って安全・安楽に医療的ケアが実施できるようになることが目的である。

到達目標

- ・実施手順・方法を学び、シュミレーターを用いて「喀痰吸引」「経管栄養」の一連の動作を一人で実施でき、演習評価に合格できる。

授業計画

【後期】

1. 口腔内吸引の手順の確認
2. 口腔内吸引の演習①
3. " ②
4. 鼻腔内吸引の手順の確認
5. 鼻腔内吸引の演習①
6. " ②
7. 気管内吸引の手順の確認
8. 気管内吸引の演習①
9. " ②
10. 経鼻経管栄養の手順の確認
11. 経鼻経管栄養の演習①
12. " ②
13. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養の手順の確認
14. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養の演習①
15. " ②

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

- ・教科書の『COCOAR』無料アプリにて、実施手順や留意点を再復習しておく。
- ・技術面を磨くため練習が必須。実技試験にむけて自主的に練習を行うこと。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (100%)
- ※100%の出席率が必要な科目である。

教科書

- ・『医療的ケア』(中央法規)

備考

授 業 科 目	IT リテラシーⅡ			担 当 者	椿 幸治		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

社会貢献活動で学んだ内容を振り返ることで今までの問題点を解決していく問題解決能力の向上や後期の事例研究発表に向けて原稿や発表資料の作成、興味を引きこむグループ発表を行う。

IT リテラシーⅠの社会貢献活動新聞を活用し SNS への展開、それぞれの現場に適した広報手法を学ぶ。

到達目標

- ・ SNS を含めた情報モラル（個人情報、著作権、TPO）を理解する。
- ・ 介護の現場に適した広報手法を活かし、SNS など で 運 用 す る 。
- ・ IT リテラシーⅠで学んだことを活かし発表の形式を自分たちで考える。

授業計画

【前期】

1. 情報モラル（SNS と個人情報）
2. SNS の活用手法 ①
3. " ②
4. 社会貢献活動と広報手法 ①
5. " ②
6. " ③
7. " ④
8. " ⑤
9. 自己紹介新聞作成 ①
10. " ②
11. グループ発表の資料作り ①（原稿、動画、PowerPoint、制作物）
12. " ②
13. " ③
14. 社会貢献活動のグループ発表 ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・ 動画や新聞などを作成する。

評価の方法・基準

- ・ 出席状況を含む授業態度（20%）、創意工夫した発表（40%）、課題（40%）により評価

教科書

- ・ なし

備考

授 業 科 目	国家試験対策			担 当 者	藤原 久礼 梅田 光希	実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)
						6 0 (2)

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な知識の習得を行う。
また、外部業者による模擬試験、学力評価試験や学内模試など模擬試験を受け、①試験の雰囲気慣れる、②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す、ことを目的とする。

到達目標

- ・介護福祉士国家試験に出題される基本的な知識の習得ができる

授業計画

【後期】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 学内模擬試験Ⅰ—① | 16. ころとからだのしくみ |
| 2. 学内模擬試験Ⅰ—② | 17. 発達と老化の理解 |
| 3. 学内模擬試験Ⅰ—①②の解説 | 18. 障害の理解 |
| 4. 介護の基本・介護過程 | 19. 外部模擬試験(午前)(外部会場) |
| 5. 生活支援技術① | 20. " (午後) (") |
| 6. 学内模擬試験Ⅱ—① | 21. 外部模擬試験の解説 |
| 7. 学内模擬試験Ⅱ—② | 22. 医療的ケア・総合問題 |
| 8. 学内模擬試験Ⅱ—①②の解説 | 23. 学内模擬試験Ⅲ—① |
| 9. 生活支援技術② | 24. 学内模擬試験Ⅲ—② |
| 10. 人間の尊厳と自立・コミュニケーション | 25. 学内模擬試験Ⅲ—①②の解説 |
| 11. 社会の理解① | 26. 学力評価試験(午前) |
| 12. 外部模擬試験(午前) | 27. 学力評価試験(午後) |
| 13. " (午後) | 28. 学力評価試験の解説 |
| 14. 外部模擬試験の解説 | 29. 学内模擬試験Ⅳ |
| 15. 社会の理解② | 30. 学内模擬試験Ⅴ |

事前・事後学習の内容

- ・行った模擬試験問題など解説も含めて、授業終了後プリントや資料(授業で使用したもの)をファイリングし、自己学習に活用する。
- ・中央法規出版の国家試験対策問題アプリケーションを用いて、各自計画的に勉強を進めること。

評価の方法・基準

・学内模擬試験の成績(85%)と出席状況・授業への取り組み(15%)で総合的に評価する。

※外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。

※模擬試験を休んだ場合は、補講として放課後残りその週のうちに模擬試験を受験すること。

教科書

- ・『2024年版 介護福祉士完全マスター問題集』(ナツメ社)
- ・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト2024』(中央法規出版)
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

授 業 科 目	就 職 実 務			担 当 者	担 任		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

各福祉施設に求められる人材の性質を理解し、就職試験対策や必要書類の準備をしていく。社会に出てから必要なマナーを学ぶ。

到達目標

- ・適切な自己表現、自己主張をすることができる。
- ・希望する就職先から内定をもらうことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション、求人票記入
2. 求人票のよみ方
3. 就職希望調査
4. 小論文・作文練習①履歴書の書き方
5. " ②
6. " ③
7. お礼状練習①
8. " ②
9. 採用試験対策①
10. " ②
11. 就職ガイダンス参加 ①
12. " ②
13. 採用面接練習 ①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・日々の言葉遣い、行動を意識する。
- ・福祉関連ニュースに興味を持ち、内容を理解する。
- ・いつでも試験を受けることのできる心構えを持つ。

評価の方法・基準

- ・出席状況(40%)、授業態度(50%)、提出物(10%)によって総合的に評価

教科書

- ・プリント配布

備考